

社会福祉法人 豊中のぞみ会

令和3年度 事業報告書

はじめに

法人として、基本理念に基づきそれぞれの事業体である、のぞみ園・のぞみ荘の安定運営を遂行するために令和4年度施行に向けて中長期計画策定準備を進めました。また、ご利用者様への満足度調査を3月に実施し、施設運営に対する率直な評価いただき両施設の健全な運営に向けた課題の見直しを行いました。

新型コロナウイルス感染関係では、1月下旬から2月上旬に掛けまして、のぞみ荘・のぞみ園ともに陽性者が出ました。のぞみ荘においてはご利用者様6名全員が陽性者と認定されました。またのぞみ園におきましてもご報告を受けた方はご利用者12名、職員9名の21名が陽性者と認定されました。

改めて予防の徹底とその対策の再構築、また有事における危機管理体制の重要性を感じさせられました。

事業全般としましては、法人の基本理念の下、①ご利用者支援に対し丁寧な個別支援計画の作成とそれに基づき個人の特性に合わせたグループ編成、きめ細かいサービスの提供、②職員の質、スキルアップに向けた取り組みと支援の標準化③コンプライアンス意識とガバナンス強化の構築④情報の共有とデータの管理と保存等を柱とし事業遂行に取り組んできました。

運営面では、のぞみ園は利用定員20名に対し21名の利用者で、開所日を260日、定員に対する延べ日数(対定員比)は5,200日(人)に対して実利用日数は4,916日(人)の94.5%でありました。事業面では、新型コロナ禍の中ではありましたが、ウイルス感染の予防対策を行いながら、可能な限り行事や活動を実施してまいりました。

また、のぞみ荘においては、定員7名に対して6名の在籍者で、開所日数は360日、定員に対する延べ日数(対定員比)は2,520日(人)に対して実利用日数は2,040日(人)で81.0%であった。年間の利用日数は、昨年度62.1%から約19%増となりましたが、今だ1名の定員割れとなっています。

職員については、昨年度のご利用者様に対する割合が2.5対1から今年度は2対1の体制を維持でき、給付費の加算が年間を通して受けられたことは単年度ではありますが、財政的に安定した年度であったように感じます。

理念と支援方針

【豊中のぞみ会の理念】

社会福祉法人豊中のぞみ会は、多様な福祉サービスを、その利用者の意向を尊重して総合的に提供し、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう、支援していきます。

【基本方針】

(1) 介護・生活支援サービスの向上に関する取り組み

- ①社会福祉法人として、理念に謳われているように、利用者を主体とした運営を基本に多種多様な福祉サービスを創意工夫しながら提供できるよう、組織全体で取り組みます。
- ②利用者の安全や安心を確保し、福祉サービスの提供の基本である人権擁護・あらゆる事故防止対策を中心とした福祉サービスにおけるリスクマネジメント体制の確立を図っていきます。
- ③災害時や様々な感染予防における危機管理体制の構築と非常時の食料及び生活必需品、感染予防に対する医薬品や備品等々の備蓄を整えます。
- ④第三者委員や関係機関との定期的な懇談会をもち健全でより良いサービスの提供に努めます。

今年度の事業遂行状況

①サービス提供の基本となる個別支援計画作成に至るプロセスを根本的に見直し、全スタッフが家族面談も含め個別支援計画作成に関わる様にしました。個別支援計画面談は基本的に対面方式で行ってきましたが、今年度に限っては、新型コロナウイルス感染拡大予防の対策として、書面による計画書作成を導入しました。またより良いサービス提供のため職員会議、ケース会議、隔月での虐待防止会議、災害防止会議も定期的に開催してまいりました。

②年度当初から新型コロナウイルス感染症対策が最も優先課題となり、施設送迎時から送迎車両のアルコールによる消毒、ご利用者さんに協力を得て登園・帰園時及び外出からの帰園時に徹底した手洗いとアルコールによる手指の消毒、職員へは支援中のマスク着用、手指のアルコール消毒の義務づけや休日の不要・不急の外出自粛の要請などを行いました。施設の設備や備品については、毎月初めに安全点検日を定め施設内の設備やご利用者さんが使用している備品や器具等の確認を行うとともに、アルコールや次亜塩素酸による定期的な消毒を行い事故や感染予防に努めました。しかしながら、冒頭にも述べましたとおり、のぞみ園、のぞみ荘ともにクラスターが発生し、安全対策の更なる徹底で対策を講じる必要を感じた年度でありました。

また、ヒヤリハット報告に加え事務室内に気づきの伝言ボードを設置しリスクマネジメント対策に取り組む、スタッフの「気づき」の標準化を進めた。

③災害時、非常時に備え、食料品の備蓄、感染症予防対策消耗備品、医薬品の整理などにも着手いたしました。食料品につきましては、保管場所の確保と経費面で非常に難しく、徐々に充実させていきたいと考えています。

④コロナ禍の中で、定期的に懇談会等で意見交換の場を持つことができませんでした。

次年度に向けての課題

①個別支援計画作成の周知⇒その必要性和モニタリング、ご本人・ご家族・スタッフとの日々のコミュニケーションから生きた計画になることの理解。また各種会議の充実に努めたいと思います。

②ハード面では、建物の地震対策、当法人が使用している建物(園、荘)は耐震設備が整っておらず有事の際に向けての対策が急務と考えます。1)オーナーへの働き掛け。2)設備の整った建物への移転等。

次に設備面では、各作業フロアの床の剥がれや劣化、椅子や机の破損が多々有り、改修や買い替えが必要と考え次年度に予算計上し早急に住環境改善に取り組んでいきます。

次にソフト面での、ヒヤリハットや気づき等に対する意識の啓蒙を引き続き進めていきたいと思っています。(継続)

③感染症予防の為に備品・消耗品の備蓄は整えたが、災害時の生活必需品、食料品の備蓄にはまだまだ不十分なので充実させていきたいと思っています。

④第三者委員、監事を招いてスタッフとの懇談会を定期的実施していきたいと思っています。(継続)

⑤職員の多様な働き方でデータ共有やお互いのコミュニケーションの必要性や重要性を意識しだし、更にデータの共有化を図るため環境を整えていきたいと思っています。

その他 ※ 各種分掌のマニュアルの見直しと作成に随時着手したい。(継続)

(2) 運営基盤の安定に向けた取り組み

- ①生活介護事業所「のぞみ園」 定員20名(現員21名)で、現員の維持及び基準利用日数の限度まで利用率をアップするよう努めます。
- ②生活介護事業所のぞみ園の営業日(開所日)の増加を検討します。
また、利用率の増加に努めます。
- ③共同生活援助「のぞみ荘」 定員7名で、現在5名。
利用者の定員までの確保に努めます。
- ④のぞみ荘における土日の利用率の向上へ、土日の送迎及び日中の支援を引き続き行っていきます。
- ⑤のぞみ荘における勤務体制の見直しを検討します。(宿直体制⇒夜勤体制)
- ⑥給与体系の抜本的な見直しを行い、職員の定着に努めます。
- ⑦法人全体のガバナンス強化に努め安定した法人運営の構築を目指します。
- ⑧業務の省力化、効率化、情報の共有化に努めます。

今年度の事業遂行状況

- ①のぞみ園は、定員は満たされていますが、日々の取り組みの内容を支援員の創意工夫により利用者の興味楽しみが増える取り組みを増やし利用率の向上を目指してきました。
- ②連休にならない祝日について開所日として、開所日数の増加をしました。
- ③のぞみ荘では、定員は7名、在籍者6名で、1名欠員です。
- ⑥現在の社会情勢を鑑み、それぞれの学卒に見合った給与支給体系の見直しを行いました。
- ⑦生活支援員の定着、補充もでき、年間を通して2対1体制も整い生活支援員の支援体制が充実してきました。(継続)
- ⑧国庫事業である、ICT導入モデル事業に参画し業務の省力化、効率化、情報の共有化に向けた取り組みを行いました。またのぞみ荘においてはインターネット環境を整え、一部法人との一元化の環境整備を行いました。
*その他、理事長、施設長、主任、事務主任の4者による運営会議を実施しました。
また、顧問とは必要時応じて経費の執行状況や見直しなどの助言を受けてきました。

次年度に向けての課題

- ①②のぞみ園・のぞみ荘ともサービス内容を精査し利用率アップを目指したいと思います。
- ③相談支援事業所には、グループホーム入居希望者の相談ケースが多々寄せられているとのこと、またのぞみ園ご利用者さんの家庭環境や高齢化を考えると将来的には新しくグループホームが必要となってくることから将来に備えて情報収集とニーズ調査を継続していく必要があると考えています。
- ⑤安定した人材確保・定着には職員が将来の生活設計が見通せられる給与体系を示すことと適切な人事評価(人事考課)を行うシステムを構築させ勤務意欲向上に努める必要があると考えます。
- ⑧のぞみ荘の保管書類等の整備・整理が不十分なので早急にデータ化を進める必要があると考えます。

(3) 人材の確保と育成に向けた取り組み

- ①全職員のレベルアップを図れるように、外部研修への積極的参加、伝達研修の実施、研修機会への計画的な参加に努めていきます。
(1)人権研修 (2)虐待防止・各種ハラスメントに関する研修 (3)支援・援助スキルアップ研修
(4)防災・危機管理に関する研修 (5)その他支援に必要な資格取得の研修への配慮
- ②第三者委員や関係機関との情報交換や懇談会をもちスキルアップに努めます。

今年度の事業遂行状況

人材の確保ではのぞみ荘で退職者がありましたが、その後人材確保も順調におこなえ現在は安定しています。のぞみ園では2:1の体制が維持できており安定してきました。

①今年度当初から、新型コロナウイルス感染予防対策として外部研修に制限があり十分に研修に参加させることが出来なかった。上半期も人権と権利擁護、虐待防止に重点をおき研修の機会を提供してきた。また職員の資格取得(サビ管・強度行動障害)の研修にも積極的に参加しました。また内部伝達研修も実施しました。

その他 ※ 職員研修計画の策定を行い計画性をもって職員研修を実施してきました。

延べ22研修 延べ36名(内 内部研修10名含む)が参加

※ 人権研修、キャリアパス研修、強度行動障害養成研修など

次年度にむけての課題

のぞみ園の職員配置は現在2対1体制ですが、後0.5ポイント上がれば1.7:1体制になるよう進め更に充実したご利用者支援に取り組んでいきたいと考えています。

- ①研修によるスキルアップと職員への伝達研修の実施。
- ②園内での内部研修や伝達研修が実施できる環境整備。
- ③全職員の研修受講。

(4) 地域社会における役割と連携に向けた取り組み

- ①入所者は、地域で暮らす地域住民の一員であり、地域の活動等に協力・参加できるよう努めていきます。
- ②地域住民との交流促進のために、施設見学会や交流会等を実施できるよう努めていきます。
- ③地域社会の一員として、事業経営の安定性と透明性を確保するとともに、地域貢献活動に取り組み、地域との連携を図っていきます。

今年度の事業遂行状況

年度当初からの新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、地域行事がのきなみ中止となり交流事業は参加できなかった。

①ふるさと とねやま 夏まつりへの参加は、新型コロナウイルス感染症予防対策の為中止

次年度にむけての課題

- ①地域の民生委員、自治会や福祉校区との情報交換
* 園の見学会などを実施して交流を進めていきたい。

(5) 施設の管理に関する取り組み

- ①建物の補修、設備・備品等、必要なことについては早期に取り組み、設備の点検を計画的に実施していきます。
- ②利用者が安全、安心で快適な施設利用ができるよう環境を整えていきます。
- ③建物の内外の美観や衛生管理に努めていきます。

今年度の事業遂行状況

①②毎月1回の安全点検の実施により、設備、備品等々点検を行ってきました。

次年度に向けての課題

①②基本方針の下半期に向けての課題でも示しているとおり、ハード面では、建物の地震対策、当法人が使用している建物(園、荘)は耐震設備が整っておらず有事の際に向けての対策が急務と考える。1)オーナーへの働き掛け。2)設備の整った建物への移転等。

次に設備面では、各作業フロアーの床の剥がれや劣化、椅子や机の破損が多々有り、改修や買い替えが必要と思われます。

(6)ご家族との連携

相互協力を基本として、利用者の園での生活や日中活動等を積極的に発信し、相互の連携、協力体制の構築に努めます。

(1)家族、保護者への説明会の開催 (2)機関紙の発行による情報提供

(3)災害時における危機管理体制や安否確認等々の相互連携体制の構築

今年度の事業遂行状況

園の取り組みなどを積極的に発信し情報提供に努めた。

(1)年度初めの家族説明会はコロナ禍であり対面での説明会は実施できませんでした。今年度の方針、事業計画は書面配布での周知となり、理解と協力をお願いしました。

(2)機関紙「のぞみ」の発行には至りませんでした、「ほけん便り」を夏・冬と2回発行することで、健康への情報提供を行いました。

次年度に向けての課題

(1)(2)をさらに充実し情報提供と共有できる環境づくりを進めていきたいと思えます。

【事業の支援方針】

■のぞみ園(生活介護事業)

①利用者が安心して通所し、毎日安定して過ごすことができるよう支援していきます。

②利用者一人一人の個性を大事にしながら、個別支援計画に基づき、ニーズに沿ったきめ細やかなサービスの提供を心掛けていきます。

③さらに利用者の特性や健康・体力に合わせたグループ編成を行いきめ細かなサービスの提供を行っていきます。

④小規模な施設であることを活かし、地域へ出かける機会を多く持ち、地域の中で様々な経験や体験をすることにより、利用者の社会性を養うとともに、地域での生活の場を広げていけるよう支援していきます。

⑤毎日充実した生活を営むことができるよう、多種多様なサービスを提供することを心掛けていきます。

⑥利用者の意見や要望、希望が反映できるよう普段から傾聴に心掛けます。

今年度の事業遂行状況

- ①日々の課題を安定提供し円滑な日中活動が営めるよう支援に努めました。
- ②個別支援計画を全スタッフが共有しコミュニケーションを図りサービス提供に努めました。
- ③コロナ禍ではありましたが、感染予防対策を徹底し可能な限り、社会見学や地域の公共の施設等を利用し社会性を養う支援をおこなってきました。
- ④ご利用者さんが、個々の特性に合った支援やサービスが受けれるよう個別対応の組み入れ支援をおこないました。
- ⑤直接ご利用者さんからの要望や希望を聞き取ることが困難にあるので、ご家族や活動での様子などを観察しサービスに結び付くように考えてきました。

次年度に向けての課題

- ①個別支援計画の理解を深めご利用者さん、ご家族のニーズに添った支援、サービスが提供できるように努める。
- ②個々の特性に合った支援が平等に提供できる環境づくりの構築。
- ③小グループによるきめ細かな支援ができる体制の構築。

■ のぞみ荘(共同生活援助事業)

- ①地域の中で、人と人との関係性を大事にしながら、豊かに生活できるように支援できることを心掛けていきます。
- ②健康で快適な生活が営めるよう、衛生面や食事面に配慮し支援していきます。
- ③家庭に代わる場として、家庭的な雰囲気のもと、安心して暮らしていけるよう心掛けていきます。
- ④利用者の意見や要望、希望が反映できるよう普段から傾聴に心掛けます。

今年度の事業遂行状況

- ①家庭的な雰囲気の中でご利用者の主体性を大切に支援をおこないました。
- ②環境整備のためにスタッフとの話し合いを行ってきました。
- ③月1回の職員会議に加えてケース会議も実施し情報共有に努めました。
- ④虐待行動には常に注意喚起を促してきました。
- ⑤特に食事で配慮し健康管理に努めました

次年度に向けての課題

- ①個々の健康管理を重点にご家庭や主治医、荘・園のスタッフとのガバナンス強化。
 - ②虐待や不適切な支援に対するコンプライアンスの徹底。
 - ③ご家族とスタッフとの懇談会や交流会の実施。
 - ④荘スタッフの研修参加とその環境づくり
- ※関係書類の整備やデータ化等々が不十分なところがあり早急に見直す必要がある。また支援母体ののぞみ園との連携体制の再構築が必要